

広報たかなべ

11

November 2018

No.415



「子育て応援フェスティバル」平成30年10月28日撮影

大人気の赤ちゃんハイハイ競争。お父さんお母さんを目指して一直線に進む赤ちゃん、大泣きしながらもなんとかゴールする赤ちゃん、赤ちゃんの数だけドラマがありました。

それを温かく見つめる大人や子どものたくさんの笑顔に包まれた会場でした。



たかなべ

台風24号 猛威を振るう

9月30日に非常に強い勢力を維持したまま九州南部に最接近した台風24号は、県内各所に被害をもたらし、本町にも大きなつめ跡を残しました。

記録的な暴風と大雨

日本を縦断した台風24号。沖縄から東北地方にかけて、広い範囲で記録的な暴風、大雨、高波、高潮を観測しました。気象庁によると、今回の台風による1時間降水量では、本町が96ミリ（9月30日11時52分まで）を記録しており、短時間で非常に激しい豪雨にみまわれたことがわかります。

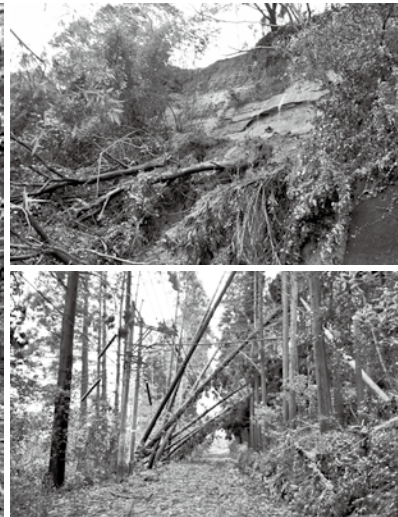
交通規制と長引いた停電

倒木や土砂崩れにより、東九州自動車道や国道10号、県道、町道が交通規制となり、主要な道路では数日間渋滞が発生しました。また、10月3日まで停電が続いた地域もあり、長引く影響により町内全体が不安な時を過ごしました。

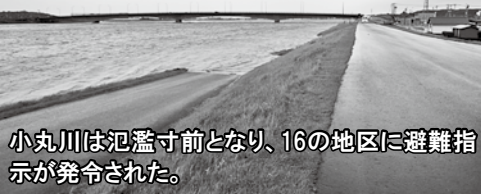


坂本坂

町内の至るところで土砂崩れや倒木が発生。



小丸川河川敷(9月30日)



小丸川は氾濫寸前となり、16の地区に避難指示が発令された。

10月9日現在



水に飲み込まれた河川敷では、この日グラウンドゴルフが行われていた。



東小学校

長年、校庭で子どもたちを見守り続けた大木の枝も、暴風を浴び折れてしまっていた。台風24号による暴風の激しさを物語っている。



台風被害状況（平成30年11月1日現在）

死傷者	0人
床上浸水(住家)	13棟
床下浸水(住家)	59棟
全壊	1棟
半壊	2棟
一部破損	17棟
その他被害 (ブロック塀の破損等)	443カ所

避難勧告に伴う対象者数・避難者数

避難勧告対象地区数	52地区
避難勧告対象世帯数	7,689世帯
避難勧告対象者数	16,514人
避難者数(自主避難含む)	182人

台風24号対応および被害状況について

日 時		気象警報等	本部設置状況	住民避難発令	備 考
9月29日 (土)	15:30		情報連絡本部設置		
	17:00			避難準備・高齢者等避難 開始発令(町内全域)	避難所4カ所を開設
	22:49	【警報】大雨(土砂災害、浸 水害)、洪水、暴風、波浪			
9月30日 (日)	6:00		災害警戒本部設置		
	10:25	土砂災害警戒情報発表			10時から13時までの3時 間雨量:184mm
	10:30		災害対策本部設置		
	13:15			避難勧告発令(土砂災害 警戒区域及び浸水区域)	12:25 小丸川氾濫注意 水位到達発表
	14:40	小丸川水位(小丸大橋) MAX値:5.27m		避難指示(緊急)発令(小 丸川隣接の16地区)	14:00 小丸川避難判断 水位到達発表
	16:00	土砂災害警戒情報解除			
	16:30				避難所1カ所を追加開設
	16:50			避難指示(緊急)、避難勧 告解除	
	17:40				避難所1カ所を閉鎖
	18:30		災害対策本部・災害 警戒本部解散		
	21:00	21:13 全警報解除	情報連絡本部解散	避難準備・高齢者等避難 開始解除	避難所4カ所を閉鎖

このたびの台風24号により被害を受けられた皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。町といたしましても、1日も早く復旧するよう努めておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

台風24号により住居が被害に遭われた方へ支援金が交付されます

対象となる家屋状況

- (1)全壊：住居の損害割合が50パーセント以上となる被害
- (2)大規模半壊：住居の損害割合が40パーセント以上50パーセント未満となる被害
- (3)半壊（床上浸水含む）：住居の損害割合が20パーセント以上40パーセント未満となる被害もしくは床上浸水

申請先

福祉課 地域福祉係 ☎0983-26-2028

※対象は住居のみで、倉庫や車庫等は対象外です。
詳細については福祉課までお問い合わせください。

高鍋町防災情報配信システム（SOSネットワーク）にぜひご登録ください！

町では、個人の携帯電話やパソコンに、地震、津波、洪水など、防災や防犯に関する情報を配信しています。日頃からの備えのため、多くの町民の皆さまのご登録をお願いいたします。

登録方法1

次のメールアドレスに空メールを送り、返信されたメールに記載されている手順に従って登録してください。

✉ t-takanabe@sg-m.jp

登録方法2

カメラ機能付きの携帯電話で右のQRコードを読み取り、サイトに接続後、手順に従って登録してください。



詳しくは、町ホームページへ「情報配信システム」で検索！

高鍋藩藩校「明倫堂」創設から240年

高鍋藩第7代藩主秋月種茂公が安永7年（1778年）2月24日に設立した藩校「明倫堂」。今年は創設240年目となります。
これを記念し、10月7日に「高鍋藩藩校明倫堂創設240年記念シンポジウム」が町美術館多目的ホールで開催されました。

◆基調講演

「高鍋藩藩校明倫堂の実学と文教・学風」～千手八太郎の存寄・経世済民の士魂～

◆パネルディスカッション

テーマ「人を育てる城下町」高鍋 ～未来に活かす 明倫の教え～



（左から）和田雅実氏（宮崎日日新聞社常務取締役 業務局長）、竹川克幸氏、下川洋一氏（明倫堂文庫を学ぶ会会長）、末岡照啓氏（住友史料館副館長）、笹山竹義氏（元県教育長・元高鍋高校長）



竹川 克幸 氏（日本経済大学教授）

基調講演で竹川氏は、「地元が生んだ先哲をどう現代によみがえらせるのか。それが明倫堂が今の高鍋に訴えかけている教えである。“文教”とは、文を学び、平和を尊び、人を教え導くこと。未来へ人間が残せる最大の財産を大切にしてきたまちが高鍋である。」と話されました。

パネルディスカッションでコーディネーターを務めた和田氏は、「今、この地域も人口減少で本当に大変な問題に直面している。ぜひ高鍋は、徹底して今まで以上に教育と歴史を大切にする町を目指してほしい。」と話されました。

多くの人材を輩出した明倫堂

明倫堂は、8歳から学ぶ小学校（Ⅱ行習齋）と15歳からの大学校（Ⅱ著察齋）に分かれ、文武にわたり30歳まで一貫教育を施しました。藩士のみならず、農民など一般庶民にも入学させていたようです。

また、成績優秀者には報奨金を給付し、さらには藩費での江戸や京阪への遊学制度もあるなど、「政治は教育を先とする。教育の目標は人倫を明らかにすることにある」の精神を全うしていました。

しかし、1871年の廃藩置県により高鍋藩が廃止されます。それに伴い明倫堂も2年後に廃校となりますが、ここでの教えは、のちに中央で活躍する大輪の花を次々と咲かせることになるのです。

明倫堂で学んだ人物たち

法曹界の重鎮となった三好退蔵や読売新聞社長になった秋月左都夫、住友総理事の鈴木馬左也、児童福祉の先駆者である石井十次など、そうそうたる人物がここから育ち活躍しました。



▲今年度初の取り組みである町職員による「子ども明倫塾」は月1回、来年3月まで実施。座学やフィールドワークを通して高鍋町の歴史を学ぶ。



▲当時の看板は、資料館で見ることができる。「明倫」とは、「人の道を明らかにする」という孟子の教えからきている。



▲シンポジウムにあわせ、町美術館にて展覧会を開催。普段は図書館や資料館に保管している資料が一堂に展示された。

◆お問い合わせ：社会教育課 文化係 ☎0983-23-3326